

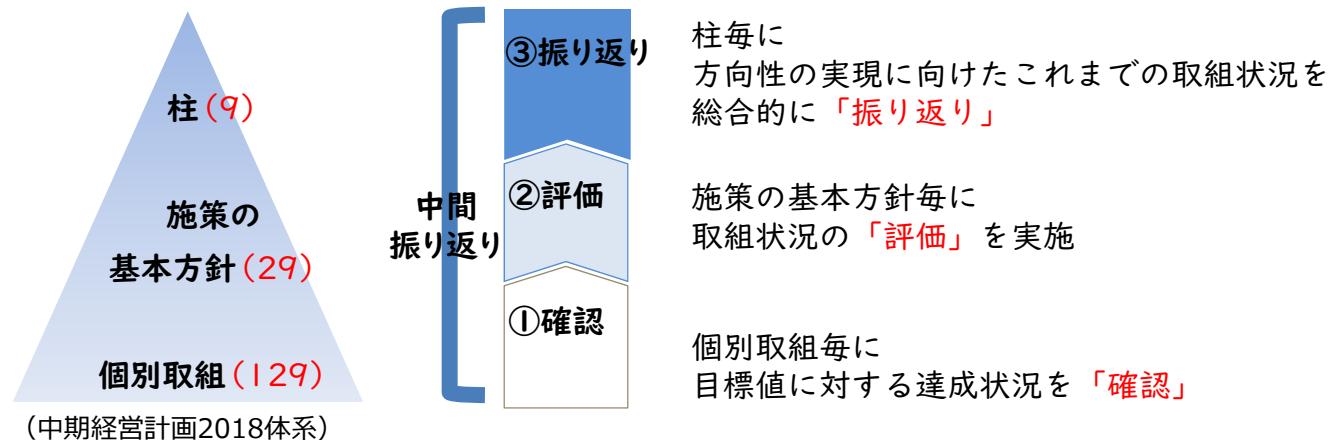
審議事項
横浜市下水道事業中期経営計画
2018中間振り返り

中間振り返りの枠組みについて

(1) 中間振り返りの進め方

(資料 3-2 P.4)

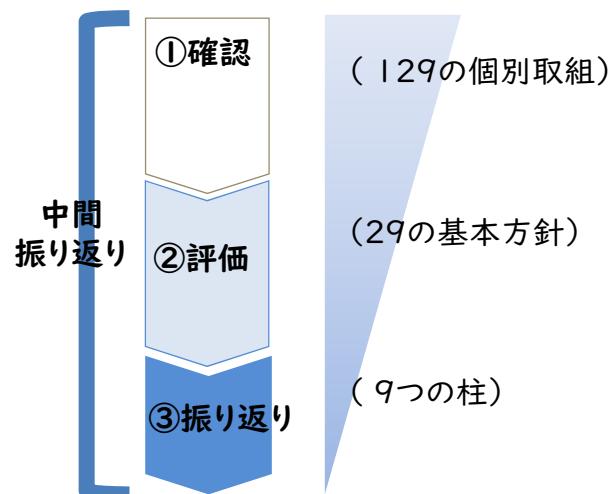
昨年度末で計画期間の折り返しを迎えたことから柱毎に次の進め方で中間振り返りを行った。



(2) 中間振り返り方法

(資料 3-2 P.5)

具体的には次の方法である。



個別取組の達成状況確認	区分	基準	点数
目標を上回った	◎	120%以上	3
概ね目標通り	○	90%以上120%未満	2
目標を下回った	△	90%未満	1

基本方針別の評価	ランク	個別取組の達成状況確認の評価点X*
予定を上回り進んだ	A	X ≥ 2.4
概ね予定通り進んだ	B	2.4 > X ≥ 1.8
予定を下回った	C	1.8 > X

*社会情勢等を踏まえた新たな取組や評価にあたり考慮すべき実績等があった場合には、それらを考慮した評価とし、()に「個別取組の達成状況確認の平均点X」に基づくランクを併記。

- ・評価を踏まえて、総合的に振り返り
- ・今後の方向性についてもとりまとめ

中間振り返りの総括 評価一覧

(資料 3-2 P.6)

主要施策と主な取組

(凡例 ■■:柱 ①など:施策の基本方針)

下水道施設の維持管理・再整備

- ① 予防保全型維持管理の強化
- ② 必要な機能向上を図りつつ、計画的な再整備を推進

A (B)
B

エネルギー対策・地球温暖化対策

- ① 下水汚泥のエネルギー・資源としての再生活用
- ② 下水道の資源・資産を最大限に活用した省エネルギー・創エネルギー

B
B

地震や大雨に備える防災・減災

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 【地震対策】 | 【浸水対策】 |
| ① 下水道施設の耐震化の推進 | B ① 計画的な浸水対策の着実な推進 |
| ② 被災時のトイレ機能を確保 | B ② 自助・共助の促進支援 |
| ③ 下水道BCPに基づく危機管理体制の確保 | B (C) ③ グリーンインフラの活用 |

良好な水環境の創出

- ① 下水の適正な処理の推進
- ② 合流式下水道の改善の推進
- ③ グリーンインフラの活用

B
C
B (C)

国内外へのプロモーション活動

- | | |
|-----------------------------------|---------------------------------|
| 【国際展開】 | 【広報・広聴】 |
| ① 新興国等の水環境問題の解決に向けた公民連携による国際展開の推進 | B ① 様々な媒体を活用した事業の透明性確保 |
| ② 国際展開を担う人材を育成 | B ② 環境教育を通じた環境行動の促進と下水道のイメージアップ |

技術開発

- ① 未来の社会に貢献する技術開発
- ② 下水道事業の課題を解決する技術開発
- ③ 下水道事業に関する最先端の知見の収集・蓄積と国内外への発信

B
B
B

財政運営・人材育成の取組

【持続可能な事業運営を支える財政運営】

収入確保の推進

- ① 財源の確保
- ② 資源・資産の活用
- ③ 未処分利益剰余金処分

支出削減の推進

- ④ コストの縮減
- ⑤ 民間活力の活用
- ⑥ 企業債未償還残高削減

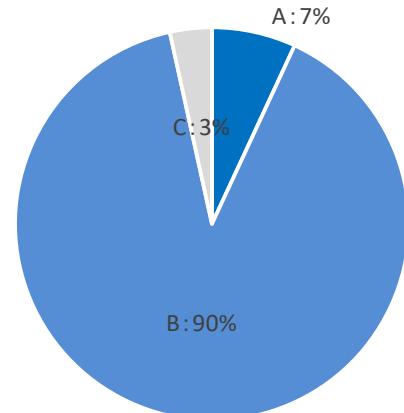
事業を担う人材の育成

- ① 研修等を通じた技術・ノウハウの継承及び定着
- ② 経験を培い、視野を広げる機会の提供
- ③ 公民連携を推進し、職員の技術力向上

中間振り返りの総括 評価結果まとめ

(資料3-2 P.6)

計画全体

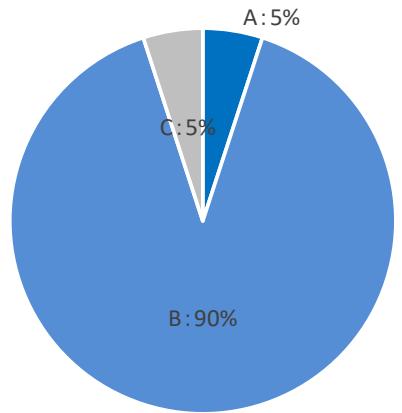


「主要な施策と主な取組(6つの柱)」、「財政運営・人材育成の取組(3つの柱)」に掲げた施策の基本方針別の取組状況評価結果は、
A・B評価が97%(29施策・取組のうち28施策・取組)となり、概ね順調に進捗

参考

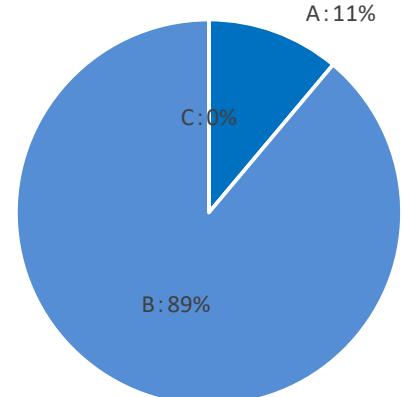
「4か年の取組と目標一覧」の個別取組の達成状況を確認し、基本方針別の取組状況を評価

【主要な施策と主な取組(6つの柱)】



A・B評価は95%
(20施策のうち
19施策)
概ね順調に進捗

【財政運営・人材育成の取組(3つの柱)】



A・B評価は100%
(9取組のうち
9取組)
順調に進捗

本日委員に御審議いただく事項

横浜市下水道事業中期経営計画2018中間振り返り

中間振り返りを行った結果を踏まえて、
主に次期の中期経営計画の策定を見据えて次の2点についてご審議いただきます。

(1)

市民にわかりやすい評価方法

(2)

定性的な目標値(指標)の確認方法

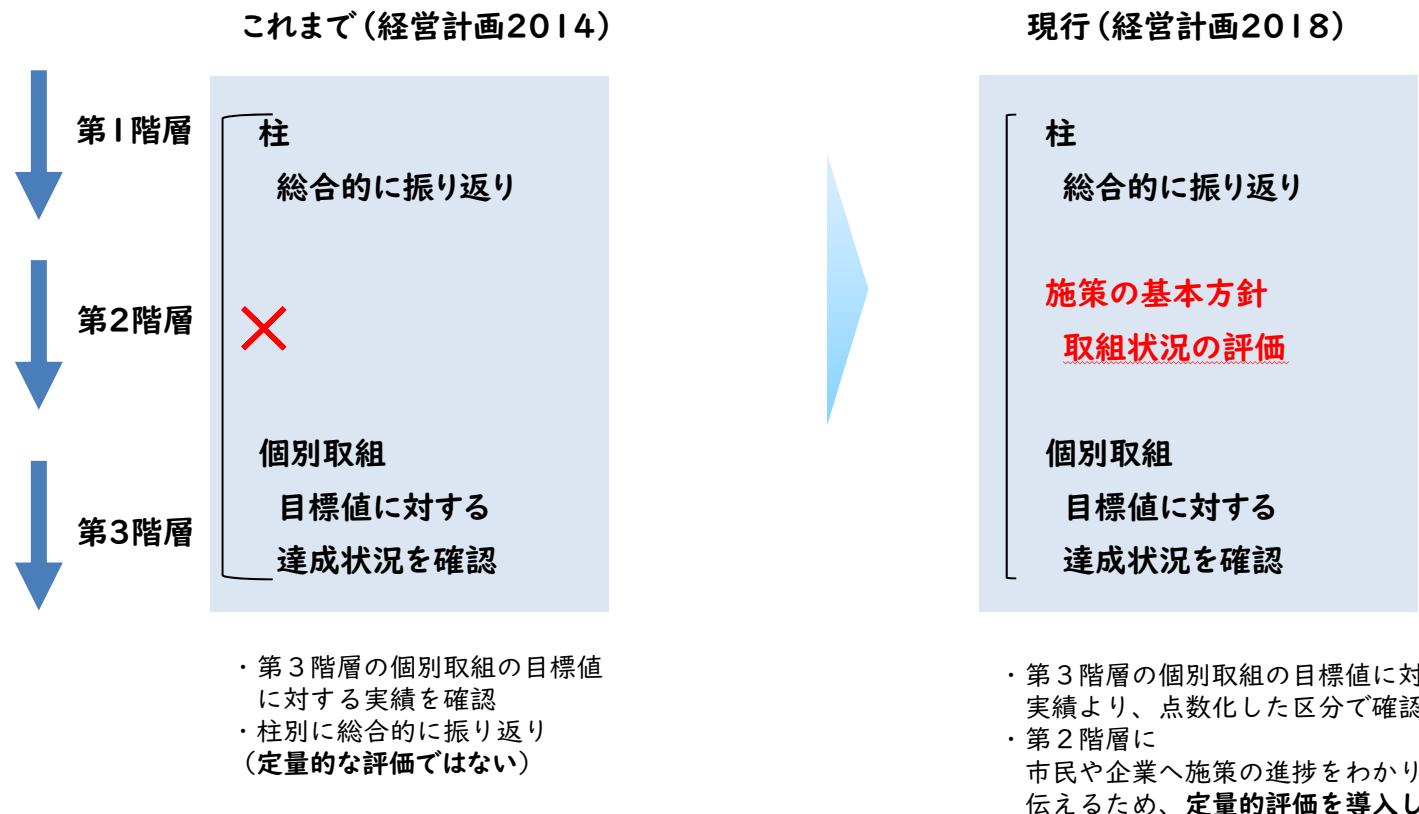
(1)市民にわかりやすい 評価方法について

(1)市民にわかりやすい評価方法について

【論点】

- ・市民に施策の進捗をわかりやすくするため、今回の中間振り返りでは、新たに第2階層（基本方針別）に定量的な評価を導入した。
- ・今後も同様の方法で評価を行うこととしたい。

<市民に施策の進捗をわかりやすくするための第2階層（基本方針別）に評価を導入>



(1)市民にわかりやすい評価方法について

【論点】

- ・市民に施策の進捗をわかりやすくするため、今回の中間振り返りでは、新たに第2階層（基本方針別）に定量的な評価を導入した。
- ・今後も同様の方法で評価を行うこととした。

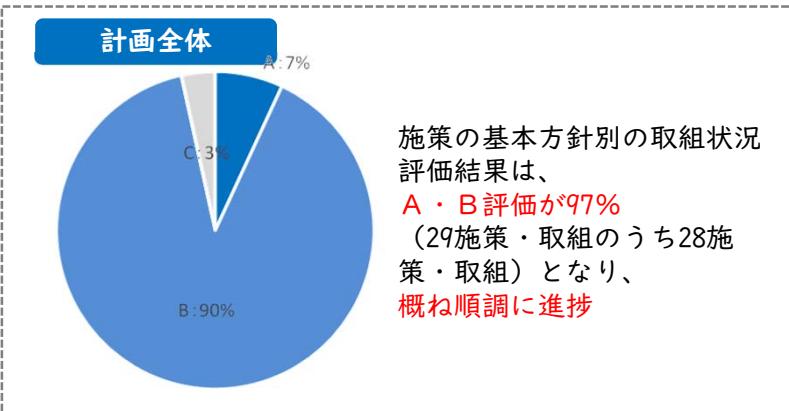
<具体的な第2階層（基本方針別）の表示方針>（資料3-2 P.4）

基本方針別の評価	ランク
予定を上回り進んだ	A
概ね予定通り進んだ	B
予定を下回った	C

個別取組達成状況の平均点から評価を実施。
ただし、社会情勢等を踏まえ新たな個別取組
があるなどの特段の実績がある場合は、それ
らを考慮した評価も可能とした。

- ・ABCの3段階のランクとした。

<評価結果の表示（例）>（資料3-2 P.5、P.6）



- ・計画全体を総括した評価結果を整理。

柱1の場合		(3点 2点 1点)					
施策の柱	施策の基本方針	評価	点数	◎	○	△	
柱1	下水道施設の維持管理・再整備	① 預防保全型の維持管理の強化	A(B)	2.14	1	6	0
		② 必要な機能向上を図りつつ、計画的な再整備を推進	B	1.80	1	6	3

- ・個別取組の進捗を点数化した区分で確認し、
その平均点に基づきランク分け。
- ・特段の実績があった場合は、（）に平均点によるランクを併記

(2) 中間振り返りにおける 定性的な目標値（指標） の確認方法について

(2) 中間振り返りにおける定性的な目標値(指標)の確認方法について

【論点】

- 中期経営計画の個別取組の目標値が「実施」や「推進」という定性的な指標に対しては、何らかの「実施」や「推進」が確認できれば、「区分○:概ね目標通り」とした。
- 次期の中期経営計画のPDCAを見据え、極力定量的な指標とするが、定性的な指標となるものは、今後も同様の確認方法としたい。

＜個別取組の目標値（指標）に対する達成状況の確認方法＞（資料3－2 P.4）

確認方法（自己点検）

個別取組の達成状況確認	区分	基準
目標を上回った	◎	120%以上
概ね目標通り	○	90%以上120%未満
目標を下回った	△	90%未満

何らかの「実施」や「推進」という定性的な指標に対しては、
進捗が確認できれば、「概ね目標通り」、
進捗が確認できない場合は、「目標を下回った」とする。

○定量的な指標

- 定量的な基準のとおり、3つの区分で個別取組の目標値に対する達成状況を確認

○定性的な指標

- 経営計画の個別取組の目標値は、定量的な指標を定めることが難しい場合は、定性的な指標を定めている。
- 表示方針に基づき、達成状況を確認

(2) 中間振り返りにおける定性的な目標値(指標)の確認方法について

【論点】

- 中期経営計画の個別取組の目標値が「実施」や「推進」という定性的な指標に対しては、何らかの「実施」や「推進」が確認できれば、「区分〇:概ね目標通り」とした。
- 次期の中期経営計画のPDCAを見据え、極力定量的な指標とするが、定性的な指標となるものは、今後も同様の確認方法としたい。

<個別取組の確認（自己点検）例> (資料3-2 P.22)

基本方針②(柱2)の場合

施策の基本方針		4か年の主な取組		指標	目標（指標の分母等）の考え方	2017年度 (平成29年度)	2021年度 (平成33年度)
【第2部】 2 ～ 2 ～ 適 応	2 ～ 2 ～ 適 応	②自助・ 共助の促 進支援(情 報提供の 充実によ る被害の 回避)	34 出前講座等を通じた内水ハザードマップの普及啓発				推進
			35 レインアイよこはまによるリアルタイムな雨量情報の提供				継続的に実施
			36 下水道管内の水位測定(水位周知下水道)				横浜駅周辺で情報提供開始 (2020年度末)

出典：横浜市下水道事業中期経営計画2018 P.75 4か年の取組と目標一覧

【浸水対策】適応の観点を導入した新たな浸水対策

施策の 基本 方針	NO.	4か年の主な取組	策定期目標値		実績値		達成 状況
			計画 開始前 2017年	計画 最終年 2021年	2018 年	2019 年	
②自助 ・共助 の促進 支援	34	出前講座等を通じた内水ハザードマップの普及啓発	推進		推進	推進	〇
	35	レインアイよこはまによるリアルタイムな雨量情報の提供	継続的に実施		実施	実施	〇
	36	下水道管内の水位測定(水位周知下水道)	横浜駅周辺で情報提供開始 (2020年度末)		推進	推進	〇

※「実施」や「推進」という定性的な指標に対しては、進捗が確認できれば、「概ね目標通り」、進捗が確認できない場合は、「目標を下回った」とした。